

第1回富良野市農政審議会 会議録

日 時：令和5年6月28日（水）18:30～20:30

場 所：富良野市複合庁舎1階 文化会館会議室 C,D

出席委員：小師和彦委員 藤野啓一郎委員 杉村鉄也委員

池田勝委員 岡田憲雄委員 小笠原博委員

鶴井敦士委員 桑折裕美子委員 林真佐子

菊地邦之委員 狩野康弘委員 東山寛委員

一宮孝一委員（代理 石垣） 本谷志雅子委員

※欠席 高田忠明委員

事務局：松木農林課長 西出主幹

中井担い手育成係長 小尾畜産係長

西尾農業振興係長 小野塚係員

1. 開 会（司会：松木農林課長）

2. 辞令交付

- ・14名の審議委員に辞令交付を行う。（1名欠席）

3. 市長挨拶（代理 稲葉副市長）

- ・昨年は、規模の大きな災害もなく豊穰の年となった。
- ・たまねぎは過去最高の販売額となった。
- ・本年の生育状況は、雪解けが早かったが、4月に入って雨、雪が多く生育は緩慢。
- ・農業者の高齢化、担い手不足、新型コロナウイルス感染症による影響継続、ウクライナ情勢による肥料、物価上昇など厳しい情勢となっているが、このような課題に対応するため、新たに策定する計画は主体的に取り組を進める上での指針となる。
- ・本日は現行計画の検証を行い、新たな計画の素案作りに向けた審議をお願いします。
※副市長公務のため、退席。

4. 委員自己紹介

●農林課長

第1回の会議で、初めての顔合わせの方もいるため自己紹介を行う。

5. 委員長、副委員長選出

●農林課長

第1回目審議会のため各委員の自己紹介を行い「富良野市農業及び農村基本条例」第17条の規定に基づき、委員の互選により委員長、副委員長の選出を行いたいと説明。委員長、副委員長の選出について意見を求める。

●委員から

事務局（案）あればとの提案あり。

●事務局

委員長に小師委員、副委員長に藤野委員をお願いしてはどうか。と提案。

<全員一致で事務局案が承認される>

●農林課長

委員長に小師委員、副委員長に藤野委員を選出し「その後の審議は小師委員長の進行で進めていただきたい」と発言し、小師委員長に進行を交代する。

<小師委員長、藤野副委員長挨拶>

●小師委員長

それでは次第に沿って進めます。次第6の基本計画策定の基本的な考え方、スケジュール説明について事務局お願いします。

●事務局 西尾

○事務局より以下の点を説明した。

- ・近年目まぐるしく変化する情勢や課題に的確に対応し、環境に配慮しながら将来にわたり良質な食料を安定供給できる豊かな田園都市実現を目指すため計画を策定する。
- ・富良野市総合計画の部門計画としての位置づけである。
- ・期間は令和6年度から令和10年度までの5ヵ年とするが、社会情勢の変化によりこの計画に大きな影響がある場合は、計画の見直しなど必要な措置を講じる。
- ・会議は予定では計4回、前段2回の会議で現行計画の検証、後段の2回で新計画の原案審議・決定を行いたいと考えている。
- ・パブリックコメントや農業エキスポなどで市民からの意見も聞いて、新たな計画を立てていく。
- ・本日は、内部評価で行った現行計画の検証分析を審議委員の意見を賜り、この検証内容に肉付けを行い整理したい。

●小師委員長

それでは次に、市役所内部・関係機関で行った富良野市農業及び農村基本計画の検証について事務局説明をお願いし、その後、各委員から忌憚のない意見をお願いしたい。

●事務局（「富良野市農業及び農村基本計画の検証」について説明）

- ・現行計画では持続可能な富良野農業を構築するため3つの重点項目を掲げている。

1 働き手確保対策

(1) JAなどによる一括確保し供給するシステム

- ・年間120名の農業ヘルパーを確保。農業体験者滞在施設の利用が働き手を確保している大きな要因。施設の更なる待遇改善が課題。

(2) 働き手改革の推進

- ・ふらの未来農業エキスポ、ガイドブック作成など広報活動を実施しているが効

果的な施策が確立されていない。

(3) 新たな確保手段の検討

- ・繁忙期の異なる3つの産地のJAによる募集活動の協力体制の構築。
- ・短期間、短時間の労働力確保も必要。

(4) 農家子弟が後継者となる就農環境づくり

- ・既存補助への上乗せしているが、活用少ない。今後の支援の在り方を検討。

(5) 子育て世代の女性が安心して働ける状況へのサポート体制の在り方を検討

- ・子育て世代の女性でも働きやすい環境を整備し、従事者の増と定着を目指す取組を実施する農業者団体発足を支援している。

2 省力化対策

(1) IT技術等を用いた機械の導入を支援、スマート農業の推進

- ・選果施設への省力化機械の導入、スマート農業技術の導入により省力化、労働力不足の解消が進んできている。今後も更なる導入を進めていく必要がある。

(2) スマート農業を実践する人材育成

- ・セミナー開催により農業者の知見を広げ地域の特性にあった技術への調査研究に取り組んだが、参加者が少なく全体的な取り組みとはなっていない。

(3) 省力化に資する栽培技術の調査研究

- ・山部地域の一部をモデル地区と指定し、通信環境整備に向けた調査・検証を行う。その結果により事業範囲の拡大を図っていく。

3 農地対策

(1) 基盤整備事業の推進

- ・計画的に国営・道営・団体振興を通じた基盤整備を行って。今後も継続した事業を行い、農村整備に努める。

重点項目以外

◆需要に即した生産の促進

- ・コロナ禍で制限させていた対面での取り組みを、SNS等の活用により販路拡大など環境に応じた取組を実施することができた。

◆農地の有効利用の促進

- ・農業振興理域整備計画の随時見直し、農地パトロールによる遊休農地の未然防止など、農業委員と連携した取組ができた。

◆環境と調和のとれた農業生産の推進

- ・環境保全型直接支払事業により、自然環境の保全に資する活動をしている農業者団体等を支援。普及センターにより土壌診断により、土壌に応じた施肥の定着がみられるようになった。

◆農村地域の多様な担い手の確保

- ・新規参入者の確保として担い手機構の資金面での受入要件を緩和した。

- ◆多様な主体の参画による地域固有の資源の維持及び活用
 - ・中山間（農村活性化対策事業）により、遊休農地の利用、農地保全等の活動を行っている団体の取組を支援している。
- ◆地域の持続的かつ自律的發展に必要な条件整備
 - ・猟友会による駆除、電牧柵の補助、鹿柵管理費の費用負担などを実施しているが被害額は減らず苦慮している。
- ◆安全及び安心を確保するために必要な条件整備
 - ・ふらの未来農業セミナーによりGAPなどの安全・安心農業の取組について研修会を実施。
 - ・JAでは、栽培履歴の提出によるトレーサビリティを実施し、各市場から信頼性を得ている。
- ◆食に関する情報提供の充実
 - ・SNSを活用して、幅広く多くの方への情報発信ができた。
- ◆市内流通の確保
 - ・メイドインフラノ認定制度により、地元企業が地元食材を活用した商品開発に取り組み、富良野産品の付加価値向上と地産地消に努めることができた。

●小師委員長

- ・今、事務局から現行計画の3つの重点項目に対する説明、その他施策についての説明がありました。
- ・委員の皆様から、現状の課題等ご意見があればお願いします。まず1点目の働き手確保から意見ををお願いします。

●小師委員長

ヘルパーはコロナ禍で人数増、コロナが明けた今年は定員120名のところ100名となっている。設備の老朽化、環境改善、小の集め方が課題。

●小笠原委員

アグリは小集めに苦労している。人材として昔より質が落ちているが賃金は上がっている。市の関わり方はどうなっているのか。

→施設は市建設し、運営（管理委託）はアグリプランが担っている
定着に向けた環境づくりが必要では。

●鶴井委員

酪農ヘルパーについて。アグリプランを活用、人が限られていて固定化。
ヘルパーの高齢化が進んでいる。課題感がある。

●藤野委員

子育てを終了した奥さんを登録制（ヘルパーとしての登録）にすることはできるのでは。抱え込む施策、みんなを引き込めるようなものにできないか。

→子育てママ向け体験会は実施したが少ない。

●NTT 石垣氏

デイワークの活用状況は広がっている。

●東山委員

第3次でヘルパー確保が喫緊の課題であった。アグリプランに聞いたが、ヘルパー確保は先細り感がある。全道でデイワークを入れていないJAの方が少ない。ヘルパーの確保状況に左右されている。切り離して考えるかどうか、方向性が定まらない。

→ JAとして副業OK。40名ほどが春先に実施（農業のみで休みの日）。

施設園芸が危惧される。

●小笠原委員

東山地域は距離的に敬遠されている。どこのでも行ってもらえるようなシステムの構築が必要。

→常雇も個人で持つ方も増えてきている。事業主自身で雇用することも考えていく必要がある。

●林委員〈女性の立場から〉

嫁いだ女性は、今は子育て専念から、時間ができてから農業。昔とは違う。

市街地のママさんは遠方まではつながらない。

●小師委員長

次に省力化対策について、スマート技術の導入についてご意見をお願いします。

●杉村委員

自動操舵は入れていない。費用に対しての効果に疑問。その分で別の作業機を入れられる。

●池田委員

人を選ばないことが大きい。田んぼの代掻き、ロス減、疲労軽減、時間短縮もいくらか。あとは費用面が問題。

→当初250万くらいだったが、100万円前後のものも出てきた

●鶴井委員

酪農では牛管理システムがあれば千頭いても管理できるが高額。

国内ソフトはまだ未熟。

●藤野副委員長

あいさく→JA×NTTで栽培履歴を携帯では場データとリンク、家族で共有できる。

●東山委員

理想的には音声入力ができるると便利。とこかの会社で開発していた。NTTでは。

●NTT 石垣氏

あいさくはNTTデータグループで行っている。手袋をして操作できないので音声入力は重要と考える。

●小師委員長

これからはマッピングとセクションコントロールに目を向けていくことも必要。
肥料低減、除草もピンポイントに。機械代と省力化、費用対効果。
スペースアグリなどがある。

●小師委員長

続いて農地対策について、基盤整備事業担当している西出主幹から東山・山部地区
国営事業について状況説明があればお願いします。

●事務局 西出主幹

山部は地区調査2年目で、あと2年調査を実施し事業実施に入る。五区御料は今年
地区調査の申請を行い、次年度から地区調査（3年間）に入り、その後事業実施。

●小師委員長

平場では河川の水位が上がっている、川底が上がっている。下五区はすでに。河川
改修も必要、平場は特に必要と感じている。
気象条件も厳しい、集中豪雨での河川氾濫への対応。インフラ整備。
畑地化について、農地の現状について農業委員の杉村委員から何か話題があればお
願いします。

●杉村委員

水活、畑地化について、地目は変更の必要がないが台帳上は削除。土地の価格の変
更、地域差がある。土地の流動化。土地の価格を見定める。
年配の方が手を挙げたときに途中流動はある。

●鶴井委員

酪農でも、違う地域に土地を求める、その際に水田であることが大事な時がある。
賦課金、改良区も維持、水を使うなら。

●小師委員長

月形あたりでは、水田を畑地化すると賦課金をもらっていない。富良野は地目が何
であろうが水を使うと賦課金は掛かる。そのあたりの状況を事務方で整理いただき
たい。

●藤野副委員長

次世代の基盤整備が10年かかるとしたら、次の支払いは次世代になる。改良区賦
課金も上がる。負担の検証、どこで負担を軽減できるか。むやみに手を挙げると次
が手詰まりになる。

●小笠原委員

市内農業者が、基盤整備は必要とする気持ちをもたないと次世代に繋がらない。
計画のみでなく、今の世代に伝えるという計画も必要では。
世代によって考え方にズレある。
畑地化の土地価格の調整が難しい。

●小師委員長

次に重点項目以外の施策について、皆様からご意見をお願いします。

鳥獣害の被害については、被害が大きいので重きをおいてやらなければならない。
多様化の農家について増えてきているが本谷委員から何か意見を頂ければお願いしたい。

●本谷委員

研修を受け、自分でもできるものとしてにんにくを作っている。

1次のみではない楽しさはあるが、面積が増えると加工に手が回らなくなる、本末転倒。自分でつくったものを看板として、作物の販売にも繋がっている。

●藤野副委員長

指導農業士の芽室の鈴木さん、6次化で乾燥野菜、自分の畑をどうするか。解決したところの情報がなかなか入らない。

農とは、食とは、富良野のイメージは食からとる。その入口をしっかりと見据えて実施する。農商観の連携が必要。

●狩野委員

重点事項の中でス、マート農業の人材育成が重要と考える。

スマート農業研究会がある。大きく全員で知る知識と、その中で部会活動を設けて掘り下げることも大事。

重点事項の基盤整備について、雨が多い気象の中で排水対策や有機物の活用も大切。
重点地域で土壌マップをエクセルファイルで作成している。適正施肥に繋げる。

●桑折委員

雇用、短時間短期間でもできるという要望がある。うまくマッチングできればよいのでは。

●小師委員長

以上で意見は切らせていただき、今頂いた意見を整理し事務方の方でまとめて次回審議会で示していただければと思います。

次第の審議事項（2）アンケート調査の実施について説明をお願いします。

●事務局 西尾

アンケートの実施について、計画策定に向けた基礎資料として、市内農業者の意見・要望等を聞き取り計画に反映していきたいと考えております。

アンケート調査項目等について、ご意見をお願いいたします。

●各委員からの意見

・ どのような時期に何人ぐらい人工が必要かを入れるのはどうか。

→入れる

・ 11 スマート農業機器で導入検討

→自動給水、灌水を入れる。

- ・後継者の中に第3者継承の意向を入れる

- ・経営形態

 - 今後の経営形態について入れる

- 小師委員長

 - (3) その他、何かあればお願いします。

 - ・案内の方法について資料をデータでも可では

 - 資料をデータで送付する

- 小師委員長

 - 次に8. 今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いします。

- 事務局 西尾

 - 第2回審議会を7月下旬から8月中旬に開催、第3回の審議会を9月中旬、第4回の審議会を11月上旬に開催予定しております。

- 小師委員長

 - これで第1回目の審議会を閉じさせていただきます。

- 事務局 松木課長

 - 長時間にわたり沢山のご意見ありがとうございました。キーワードとしては「未来への投資」ということで次回以降、またご意見を頂ければと思います。

 - また、計画だけではなく実践に繋げてまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。